



案内容を説明した。

内閣府、文部科学省、農林水産省、経済産業省、厚生労働省、国土交通省を回り、郷土愛の醸成、県土基盤の形成など8テーマ、総数90項目から成る提案書を提出した。

地方創生に関し、バイオ技術を核とした新産業創出への支援の充実強化、財政支援制度の創設などを求めた。「やまがた森林(モリ)ノミクス」の推進による地域活性化策として、林業・木材産業と工業分野の「林工連携」が木材需要、雇用の創出につながると説明。ペレットストーブなどの技術・製品開発に対する支援制度創設を提起した。

山本幸三地方創生担当相への説明で、吉村知事は「県民の総意としてお願いにきた」と強調。要望後の取材には「未接続区間の多い高速道路の問題も含め、地方創生を実現する施策について広く説明させていただいた」と話した。また、今回の活動を通じ「国会会期中

県選出国會議員らと共に山本幸三地方創生担当相(中央)に提案書を渡した吉村美栄子知事(左から2人目)、志田英紀県議會議長(左端)＝内閣府にもかわりらず、多くの大臣に会うことができた。林工連携の提案について、国が既に動き出している話を聞いたことなど、多くの成果があった」と述べた。

90項目の提案書 関係省庁に説明

県開発推進協、国に要望

県開発推進協議会として取りまとめた「政府の施策等に対する提案」を2018年度の政府予算案に反映させるため、会長の吉村美栄子知事と副会長の志田英紀県議會議長らが9日、関係府省を回り、大臣らに提